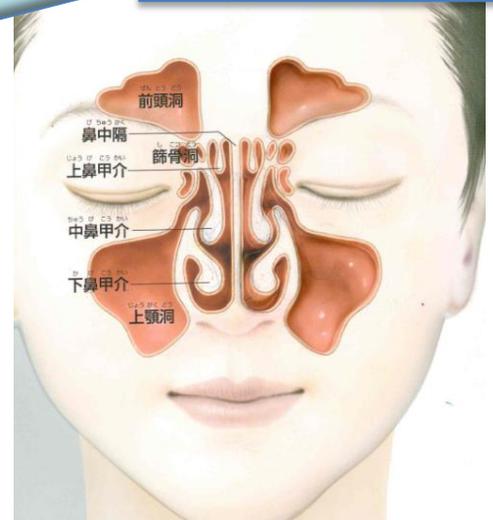


急性副鼻腔炎



原因と症状

・鼻や目の周りの骨に囲まれた空洞に細菌感染が起こって生じる病気です。副鼻腔は、上顎洞(じょうがくどう、頬の奥)、篩骨洞(しこつどう、眼の内側)、前頭洞(ぜんとうどう、眼の上)、蝶形骨洞(ちょうけいこつどう、篩骨洞の奥)があります。通常副鼻腔炎は空洞となっていますが、これらの副鼻腔に細菌が感染し、急性の炎症が起きて膿がたまるのが急性副鼻腔炎です。

・それぞれの副鼻腔により症状は異なり、上顎洞に炎症が起こると頬の痛み、篩骨洞では眼の内側や眼の奥の痛み、前頭洞では“おでこ”の痛み、蝶形骨洞では頭痛や頭重感、目の奥の痛みなどが特徴です。全身的な症状として発熱や倦怠感を伴うこともあります。

診断と治療

診断は、鼻内をファイバースコープなどで丹念に観察し、必要があれば画像検査をおこないます。治療は鼻にたまった鼻汁を吸引して取り除き、原因菌に有効な抗菌薬や消炎鎮痛薬を投与します。急性副鼻腔炎の後に慢性副鼻腔炎になることもあるので耳鼻咽喉科での適切な治療が必要です。

家庭でできること

痛みがある場合には、手持ちの痛み止めがあれば内服し、翌日に必ず耳鼻咽喉科を受診しましょう。鼻をかむことは大事ですが、あまり強くかみすぎると中耳炎になったりすることもありますので注意しましょう。

急患診療センターを受診するめやす

痛み止めがなく症状が強い場合は急患診療センターを受診しましょう。耳鼻科外来は日曜、祝日、GW、年末年始の昼間(9:00~18:00)となっており、それ以外では、内科などの受診となる場合があります。

新潟市急患診療センター (電話025-246-1199)

<http://www.niigata-er.org>